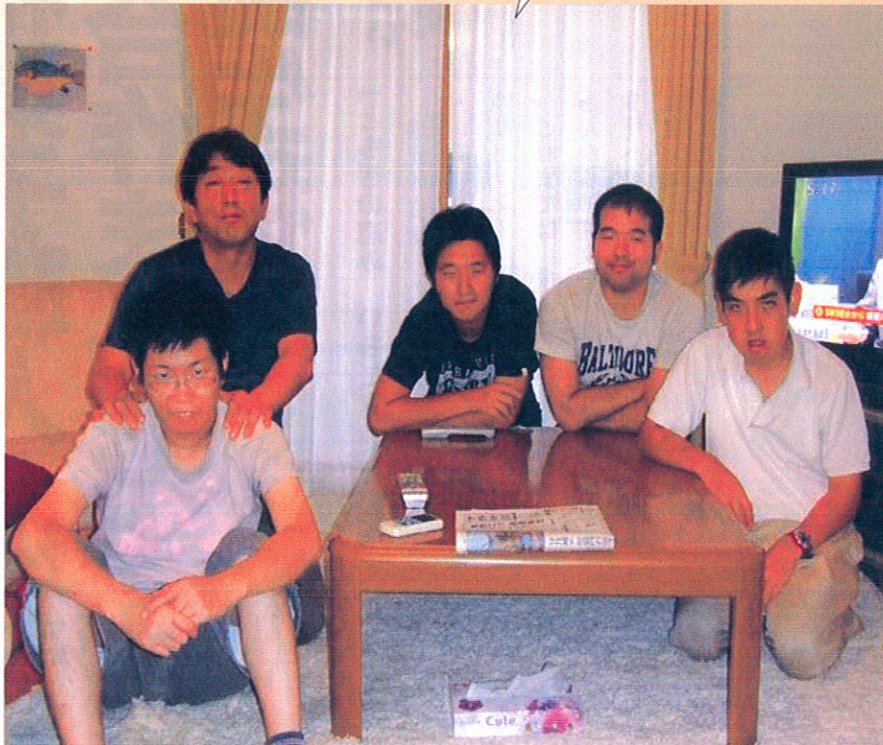


# こぶしだより

## Vol. 360

2013・9・15発行

一般就労をしている2人を中心にチームワーク抜群でアットホームな「ぼてっと」。みんな仲よくやっています。



### ●特集：けやき作業所…2-5

- 400字で語る福祉 ①牧岡健(ひまわり所長) ②尾池麻由(こぶし支援員) ③星宮有子(けやハイツ世話人) ④松本祐一(県東LSC真岡支援員)…1, 3, 5

### ●新・たまみシュラン【ピケのSLサブレ】…6-7

- 一般就労者の現在 ●ギャラリーこぶし…8

### ●こぶしづかん…10

- 連載【社会モデルを地域文化に】…11

### ●事業所一覧 ●おのぶくろう…12



新案内人：MAYu

### 【新・シリーズ】400字で語る福祉①

※職員が400字で思った「福祉」を語ります。毎回2-3人が登場します。期待してね!

#### “情緒”かな?

◎牧岡 健さん(ひまわり所長)

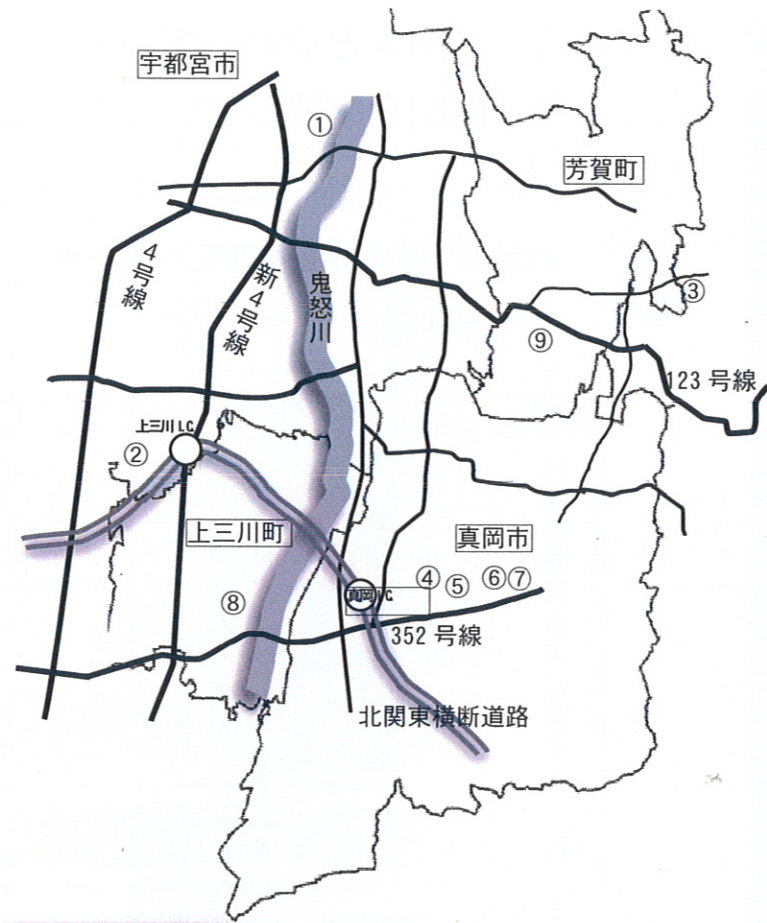
以前どこかの講演で「福祉」の字についての説明があった。示(しめすへん)は恵を表し、福は人間が生活に困らない恵み。祉は、人の心に止まって幸せになること。つまり、生活の幸せと心の幸せが福祉であるというのである。

福祉とは? 支援とは? よく議論になる言葉である。私は、福祉にしても支援にしても与える人(それが環境への配慮や改善であっても)と受ける人(家族・環境)がいて成り立つものであり、つまりは自分を中心としない、まず相手を先にするという社会構築なんだと思う。

福祉と縁遠い世界で30年近く生活し構築された「私」という人間が今、福祉という概念的な社会で生きている。しかし、これまでの人生で学んだことで福祉に無関係なものが見当たらない。限定的に考えていただけだと今更思う。言葉の示す意味も興味深い、かつて読んで心から離れない、岡潔がいう「情緒」というものに福祉が集約されているように感じる。少し調べてみよう。



## こぶしの会 事業所一覧



【企画】社会福祉法人こぶしの会【責任者】藤田勝春【編集責任者】高橋温美【編集】こぶしだより編集委員会  
【注所】〒320-0919 宇都宮市柳田町1401番地【発行所】東京都世田谷区站6-26-21 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価50円

- 宇都宮市柳田町 1401  
□こぶしの会法人本部  
028-613-3707 (F) 028-666-6128  
028-666-0418 (居住生活支援事業部)  
□第2けやき作業所  
028-680-5937 (F) 028-680-5938
- 宇都宮市茂原町 837-1  
□こぶし作業所  
028-653-1020 (F) 028-688-1121  
□障がい者生活支援センターこぶし  
028-613-5703
- 芳賀郡芳賀町祖母井 2244  
□けやき作業所  
028-687-1040 (F) 028-677-5789  
□地域活動支援センター「ほっとCHA」  
090-7820-9165
- 真岡市亀山 1043-23  
□セルフ・みらい  
0285-81-1155 (F) 0285-81-1177
- 真岡市荒町 3-9-5  
□県東ライフサポートセンター真岡  
0285-83-2567 (F) 0285-85-8055  
□お菓子工房 ピケ  
0285-81-7091 (F) 0285-81-7092
- 真岡市荒町 111-1  
□県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」  
0285-85-8451 (F) 0285-85-8452
- 真岡市荒町 110-1 市総合福祉保健センター内  
□芳賀地区障害児者相談支援センター  
0285-80-7765 (F) 0285-80-7765
- 河内郡上三川町大字上三川 5082-15  
□上三川ふれあいの家ひまわり  
0285-38-6821 (F) 0285-38-6841  
□上三川町障がい児・者生活相談支援センター  
0285-38-6854  
□アトリエ・ド・パン シュシュ  
0285-56-7731 (F) 0285-56-7732
- 芳賀郡芳賀町西水沼 438-2  
□おらがそば茶屋  
028-680-5091 (F) 028-680-5092



### 障がい者って何人いるの?

内閣府「平成19年版障がい者白書」によると709万人。日本の人口の約5%です。20人に1人の割合で何らかの障がいがあるということです。また、この調査は「障がい手帳を持っているか」で判断しているため、必ずしも障がいのある人全員を数えているわけではありません。実態ではもっと多くの方がいるのです。障がい者の過ごしやすさ・働きやすい国作りには国民一人一人が障がいを身近に感じ、日本が一体となって環境を整えること。すでに福祉に対して意識的に取り組んでいる国もあるのです。考えましょう! 行動しましょう! いつやるの? 今でしょ!

### 【編集後記】

●今回の取材を通して、製品を一つ作るためには多くの方々の協力が無いと良い製品は作れないことを学びました。協力して下さった方々の汗、製造担当職員の汗、販売担当職員の汗、それらを管理する方々の汗、多くの努力が実を結び今のこぶしの会があるんですね…改めて感動しました!(小野)  
●こぶしだより編集委員になって、今回初めて取材に行きました。緊張しましたが色々勉強になりました。インタビューを元に記事をまとめるのが難しく、ほとんど一緒の担当の小野さんに頼ってしまいました。(ありがとうございます!!)

難しかったけど無事に完成してよかったです。(尾池)  
●ドライバーのマナーの悪さは全国屈指の我が栃木県。だからといって役所の職員と思われる方までそんなのはいかげなものか? 見通しの悪い入口にノーブレーキで突っ込む度胸、一方通行を逆走して対向車を下からせる意志の強さには感服ですが…。でも、M市役所の駐車場に停める皆さん、市民は見ていますよ。(松本)  
●あつという間に夏が終わってしまいました…。今年の夏も日光でのキャンプ&神輿を担ぐという自分の中の恒例行事を楽しみました。もうすぐこぶしの会に入り半年が経とうとしています。1日

1日を大切に仕事に向かいたいと思います。(長谷川)  
●先日、高校時代の友人の結婚式に出席してきました。地元からめっぽう離れてしまっかなか会うことができませんが、久しぶりにあっても、バカ話ができる仲間がいるっていいですね。(菊地)  
●今年も行ってきました!! 去年も体験して自然とガイドさんに癒された、キャニオニング。今年はラフティングも体験してきました。キャニオニングとは違った楽しさがありました。自然の癒しは凄いです。来年の夏も今から楽しみ。冬は何して遊ぼうかなあ…。(篠崎)

# 和菓子職人&地元のいろんな人との 「とちおとめまんじゅう」 「合併作まんじゅう」 誕生秘話

「特注・秘密の名品」をついに公開！ 量産体制も構築中。

けやき作業所（芳賀町）から新商品ができました。その名も



「とちぎの恵み いちごまんじゅう」

地元芳賀産のとちおとめがふんだんに入っているあんことやわらかい薄皮との絶妙なバランスに仕上がった逸品です。

これまでは、主に町の行事や他の事業所さんからの注文をいただいたり、けやき作業所への来訪者の方へのお茶菓子用として限定で提供していました。が、栃木県の名産品でもあるいちごのPRに一役買うため

にも、また真岡や芳賀にいちご狩りに来た方へのお土産品としても食べていただけたらいいように、さらに各地でお買い求めいただけるようにと量産体制と取扱い店舗拡大、品質管理、取り扱い店舗拡大の準備を進めているところです。

**地元職人+地元企業+地元農家：たくさん協力で完成**

このいちごまんじゅうの製造には、たく



坂内孟（さかうち たけし）●まんじゅうづくり50年。和菓子店や東京の洋菓子店で修業を積み、榮太郎や上野百貨店等でまんじゅうづくりに携わる。その間、多くの職人からも師事されてきた。現在は地域の学習支援ボランティアとしても活躍中！

教えるるとどんどんできるようになるし、つついもつと応援したくなっちゃうよね。

一緒に歩んだ坂内さんとの3年間

坂内先生との出会いは芳賀町社会福祉協議会主催の「ふれあいふくしまつり」でした。以前は社協のボランティア

に自ら飛び込み、地域のボランティア活動や施設訪問でお茶菓子を作るなどの活動をされていたそうです。そんな多忙の坂内先生からお声かけいただき、3年前から作業所でのまんじゅうづくりがはじまったのでした。

まずは職員が坂内先生から直接指導を受けてのまんじゅうづくり。パンの生地をこねたことはあっても、やはり一筋縄ではいきません。それでも継続して何度も指導いただきました。製造に使用している道具も先生自ら工夫して作っていただいたりもしました。より良い品質を目指して、まんじゅうづくりの修行と商品開発の試行錯誤の日々が続きました。いまま坂内先生の指導のもとで「時代に合わせたまんじゅうづくりとは何か」を考えながら、日々品質向上を目指して励んでいるところです。

みんな

一生懸命だし、

思ったより覚える

のが早くてびつ

りだよ。

「実際に作るのには難しいことだけれども、教えるるとどんどんできるようになってきて、つついもつと教えたくなってしまし、応援したくなっちゃうよね。みんな一生懸命にやっていると、思ったよりも覚えるのが早くてびつりだよ。自分ができることをやっているだけで、多少でも喜んでもらえるからね」と、坂内先生も笑顔です。

先生は、福祉施設で本格的に製造指導するのははじめてだけど、障がい者の方との関わりで生き方や人生観が変わった気がすると、話されていました。



◎あんを包むこの手さばきを伝授いただいた。



**400字で語る福祉②**  
※職員が400字で思っている「福祉」を語ります。毎回2-3人が登場します。期待してね！  
◎尾池麻由さん（こぶし支援員）

## 正解がないこと

福祉とは何か…以前は漠然と「弱い人の手助けをする」イメージを持っていた。実際は福祉の仕事も細かく分けると様々な分野がありそれぞれカラーが違う。例えば、高齢者施設で働く場合はお年寄りのためにできないことを代わりにやることが一番良いことだが、障害者施設だと本人の自立を

促すために自分でできることは自分でやらせてもらうことが本人のためには一番良いとされている。しかし現場で上記のことが実践できているかというところは難しい。パンの製造を例に挙げると、利用者に仕事を全て任せると商品価値が下がってしまったり、利用者が作業すると時間がかかってしまい納品時間などに間に合わない場合などは職員が代わりにやってしまうこともある。福祉の仕事について約1年弱が経過したが、仕事をしていて常々感じることは、正解がないことである。一人一人特性が違うので対応が難しいと感じながら日々仕事を行っている。

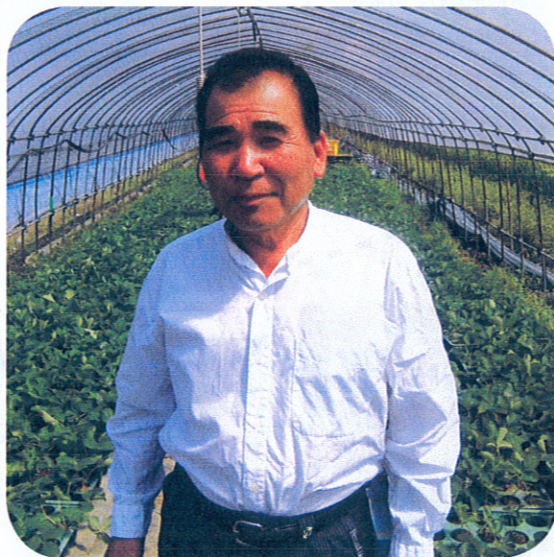
# いちごで応援しています!

いちごまんじゅうの大事な核となる「とちおとめ」を提供いただいている農家をご紹介します。みなさん気さくで、朗らかな方々ばかり。いちごを提供いただく時にはいちご狩りも一緒に体験させていただき、季節の行事として楽しんでいます。



石川典男さん→写真は奥さんです(真岡市)

こぶしの会のセルフ・みらいで利用されているご家族の方です。収穫時期の終わる6月ごろ、いちご狩りをさせていただきながら、まだ大粒のいちごをご提供いただきました。ちょうど冬採り用の苗(冬収穫)を作っているところでしたよ。



大谷正美さん(市貝町)

けやき作業所を利用しているご家族からの紹介でした。ここ数年、大谷さんのご好意でいちご狩りをさせてもらっていますが、今回はまんじゅうの材料としてご協力いただきました。夫婦そろって常々お気づかいいただき、至れり尽くせりのいちごの提供です。大谷さんのいちごは市貝町の芝桜まつりでも買えます。



黒崎三男さん(芳賀町)

けやき作業所の利用者から紹介いただきました。いちごは10年ほど前から作っているとのこと。「きちんとした作り方をすれば作れるもんだよ」と栽培のいろんな工夫を気さくにお話しいただきました。「きちんとした」というところがミソなのでしょうね。

## 「人に喜んでもらえること、その喜びを感じられることが生きがい」

●坂内さんつながりで「シーラー」を寄贈いただいた坂本さん

宇都宮市内でサカモト菓子店を営まれている坂本光司さんからシーラー(袋詰め用

の機械。袋の口を熱で密着させる)を寄贈いただきました。これまで作業所で使用し

ていたものと比べると格段に性能が良く品質向上のために大変重宝しています。

坂本さんは来年80歳。「人に喜んでもらえること、その喜びを感じられることが生きがい」と話されます。お店を営んで長い年月を経ますが、ここに至るまでに一流の職人としての下積み経験のなかで坂内先生との出会いがあったとのこと。出会いから早や20年がたち、家族ぐるみのお付き合い

いをされています。取材のときにも、奥様や息子さんと一緒にテールを囲み、昔をふりかえりながら談笑している光景に坂本さんご一家の温かさを感じました。



音に導かれて、小学生が立ち寄ることもしばしば。「モロヘイヤまんじゅう」と描かれた看板が目立ち、気になるところですが、食べてみて間違いなしの一品です。

「リースナブルなお値段で、美味しさ保証◎(二重丸)のみてはいかがでしょうか。

そんなサカモト菓子店には小さなギャラリーが併設されており、趣味で描かれている数々の絵画や、息子さんの趣味のドラマセットも置かれています。ギャラリーのよみは音楽スタジオから漏れ聞こえるドラマ

サカモト菓子店に、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



サカモト菓子店 ■〒321-0914 宇都宮市下桑島町438  
■電話 028-656-2456 ■営業時間 / 8:00-18:00 ■定休 / 木曜日

### 400字で語る福祉③

※職員が400字で思っている「福祉」を語ります。毎回2-3人が登場します。

◎星宮有子さん(けやきハイツ世話人)



### 本人と一緒に強みを引き出す

福祉とは、身体や精神の障害、または環境上の理由で日常生活を送ることが難しい、そんな人の声に耳を傾け相談に乗り適切な援助をすることだと思います。相手のおかれている立場は替わってあげられませんが、一人一人に寄り添い、誰もが幸

せな生活を営めるよう、これからの生活を一緒に作っていくことが、福祉の役割だと考えます。この際、相手に代わって問題を解決するのではなく、その人自身が問題解決していく力を高めるために支援していくことが大切です。「何ができないのか」という観点だけではなく、むしろ「何ができる人なのか」というその人のもつ強さにも目を向けていくことが必要だと思います。また弱さを克服することだけでなく、弱さを抱えながらも強さをいかして、どう生活を支えていくかを考えていく視点も重要だと思います。生きる意欲をもてるためには何が必要なのかを、相手と一緒に考えていくことが大切なのだと思います。

### 400字で語る福祉④

※職員が400字で思っている「福祉」を語ります。

◎松本祐一さん(県東LSC真岡・支援員)



### 業界全部、人柄がいい

畑違いの業種からやってきてまだ2年と数か月のペーペーの自分に「福祉を語れ」と言われても…できるわきゃない。でもこれで終わらせるわけにもいかないので、これまで経験してきた業種との違いを書きたい。あくまで私見なので、マジメに反応しな

いでほしいですけど

とにかく、人柄が優しいこと。マツモトの話をとったりはきちんと聞いてくれる。ほぼ例外なく、自分でもよく的外れなこと言うのは自覚してますし、一瞬「何言ってるのこいつ?」的な表情されますが、それでも「そういう考え方も大事」みたいな反応があるので、こちらもホッとしますね。外部研修等で分かったが、これってこぶしの会だけでなく業界の人に共通みたい。福祉業界の特色なのかな? きっと、こんな人たちだから福祉業界が成り立ってるのかな? と思いました。

きっと福祉は「人」なんだなあと思います。

●お久しぶりのたまみシュランです。

●今回からたまみシュランは代替わり！ 2代目たまみを尾池真由が担当します。みなさんよろしくお祈りします。さて記念すべき第1回の訪問は「お菓子工房ピケ」。真岡市荒町にあります。真岡観光の目玉「SL」をモチーフにしたサブレの開発に成功しました。道の駅にのみや、真岡物産会館、全国ゆるキャライベント（横浜、米沢）でのデビューが控えているまさに旬の菓子。さっそく行ってみましょう。



セルプ・みらい  
「お菓子工房ピケ」

# たまみ Sしサブレーが



## 【誕生秘話】

### 完成までに苦節2年、 地場企業のたくさんの協力アリ

あるようでなかったSLサブレが生まれました。

製造には、真岡鉄道（販売）+タイガー刻印製作所（焼印）+ヘイコーパック（菓子箱）+大和食品（製造）、と多くの方々のご協力がついに製品化までたどりつきました。

なんと企画立ち上げから製品販売まで費やした期間約2年以上。担当者は「しっかりとした体制・安定した製造を保ち、地域に根差した真岡の顔となるよう今後も努力していく」との意気込みを熱く語っていました。

SLサブレは8月4日「96(キューロク)サマーフェスティバル」から歩み始め、まだ1か月余のよちよち歩き。真岡の物産品として真岡鉄道を訪れる観光客に、また地域の皆さんには地元のお土産として愛されるよう宣伝・営業に努めます。あまり遠くない時期に「鉄道博物館」にも参入をチャレンジ。目指すは全国展開！

お菓子工房ピケの今後の命運を分ける商品、是非お試しあれ。

## 【焼印のひみつ】 関東ではここだけ。

焼印は簡単に作れそうなイメージがありますが、関東全土を見渡しても、神奈川県にあるタイガー刻印製作所でしか作っていないため、「しっかりと目で見て確認する必要がある。」とのアドバイスを受け、担当職員とアドバイザー二人で現地まで4時間30分かけて焼印を作りに行きました。



セルプ・みらい  
お菓子工房 ピケ  
★真岡市荒町 3-9-5  
★電話 0285-81-7091  
★FAX0285-81-7092

こぶしんぽの  
パンツライ!!

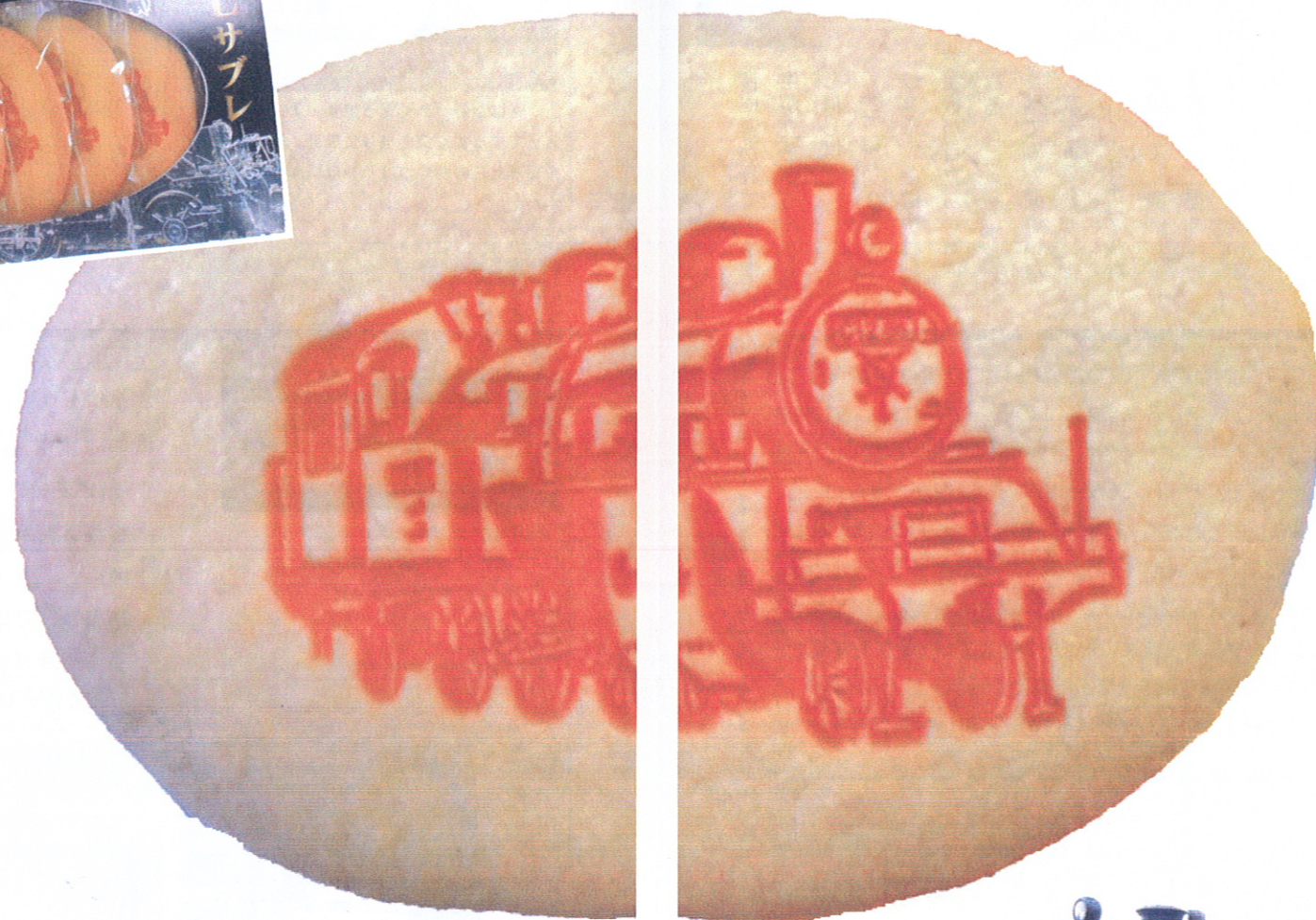


お菓子工房ピケの利用者E君。  
サブレの箱詰め頑張っています。

# 完成したよー！

## SLサブレ関係者の熱い一言集。

- ま：なぜSLサブレなの？**  
★「ピケのメインになる商品と考えたとき、真岡市=SLそして日持ちする商品…サブレでしょ」
- ま：企画から2年間…長いですね？**  
★「準備ができたから職員が辞める。異動する。そうしてまた1からやり直し。商品をしっかり作ることが大切なのに、こぶしの会は他のことに気を取られすぎているからだよ」
- ま：そもそもなんで協力してくれたんですか？**  
★「福祉施設だから協力しているんじゃない。担当職員の熱い気持ちと努力を見ている。そしてようやく商品化までたどりついた」
- ま：SLサブレに込める気持ちとは？**  
★「販売相手は一般の方々だよ。福祉だからと言って甘えの通用する世界じゃないよ。目先の利益よりも先のこと、長い目で見て商品を作るのが大切だよ」
- ま：今後の展開は？**  
★「相手に迷惑がかかるならやめた方がいい。利益を出して成果が出る。甘い考えで商品を作るのではなく、一つ一つのことに最善の努力を加えることが今後につながってくる。やっと商品ができた。これからも頑張してほしいね」





**画伯 将来の夢は「青になりたい！」**  
**ぬり絵に魂を込めています。**

その時の自分の気持ちを思いっきりぶつけた、そんなぬり絵作品をたくさん作っているのが、セルプみらいの長田司さん。自分の作品を満足そうに見つめる姿からは、まさに画伯と呼ぶにふさわしい職人のオーラが漂ってききました。

長田画伯いわく「自分の魂をぶつけた」「命を削って、見る人を引きつける力強さを出した」そうで…。みらいフェスタなどでも販売し、売り上げでクレヨンや鉛筆、消しゴムなどの備品を購入しているそうです。

セルプみらいでは普段、缶つぶしや納品作業に精を出し、坂本龍馬が大好きだという長田さん、将来の夢を聞いたところ、「青になりたい！」と…。

なるほど、それで青い服を着ているのかと思いましたが、「別にそんなわけではない！」あれ…?。

実に、奥の深い長田画伯でした。誌面が白黒なのがとても残念です  
 (文・松本祐一)

**ロール紙のセット業務。無口だけど仲間と楽しそう**



**一般就労者の現在 ● ⑨水沼弘典さん**  
**に屋台村めぐりしてました。**

「夏祭りシリーズ・後編」今年の真岡市夏祭り&花火大会は残念ながら天候に恵まれず、さらに随分と大変なことがあったようです。それでもチャレンジセンターに集まった面々は屋台村めぐりをする人もいたり元氣一杯。ということで今回も夏祭りの後編です。

前回登場の桜井さんとは、まったく対照的に物静かで恥ずかしがり屋(?)な水沼弘典さん。第2けやき作業所から、彼もまたハイコーバック(株)に就職し、自転車で20分ほどのりを休まず毎日通っています。

現在はロール紙のセット作業をしています。が、特に困ることも悩みもなく、毎日楽しんで仕事に取り組んでいる、そんな前向きな姿勢が魅力的です。

取材中も無口でしたが、前回登場の桜井さんとは仲良しで、二人で話している時はすごくいい笑顔をみせてました。次の取材の機会には笑ってほしいなあ。

そんな水沼さん、実はモチベーションアップの源が会社にあるようです。…若いうちがいいですね!(本人の強い要望で書けません。あしからず)

一般就労を実現した仲間の楽しい集いでした。次回もご期待ください。  
 (文・松本祐一/協力・チャレンジセンター)

前回は夏祭り&花火大会は残念ながら天候に恵まれず、さらに随分と大変なことがあったようです。それでもチャレンジセンターに集まった面々は屋台村めぐりをする人もいたり元氣一杯。ということで今回も夏祭りの後編です。

前回登場の桜井さんとは、まったく対照的に物静かで恥ずかしがり屋(?)な水沼弘典さん。第2けやき作業所から、彼もまたハイコーバック(株)に就職し、自転車で20分ほどのりを休まず毎日通っています。

現在はロール紙のセット作業をしています。が、特に困ることも悩みもなく、毎日楽しんで仕事に取り組んでいる、そんな前向きな姿勢が魅力的です。

取材中も無口でしたが、前回登場の桜井さんとは仲良しで、二人で話している時はすごくいい笑顔をみせてました。次の取材の機会には笑ってほしいなあ。

そんな水沼さん、実はモチベーションアップの源が会社にあるようです。…若いうちがいいですね!(本人の強い要望で書けません。あしからず)

一般就労を実現した仲間の楽しい集いでした。次回もご期待ください。  
 (文・松本祐一/協力・チャレンジセンター)

**報告します**

**直売所 6 か所にパン拡大!**



①JAはが野「あぐりっ娘」…入口を入ってまっすぐ突き当りに陳列。野菜を買った日のおやつはパンはいかがですか?



⑤四季彩…売り場を大きく確保しました。みなさんの食卓にシュシュのパンが並びますように。



サブレやまんじゅうに押され気味ですが、パン事業も元気いっぱいです。オープンから変わらぬスクラッチ製法で満足の味を提供しています。今年の夏から秋にかけてけやき作業所「にこにこパン屋さん」では新しい販売先が増えたので宣伝します。

- ①JAはが野 井頭フレッシュ直売所「あぐりっ娘」(真岡市上大田和)
- ②JAはが野「真岡フレッシュ直売所」(真岡市田町)
- ③294号線沿い、井頭温泉(真岡市下籠谷)
- ④B & G海洋センター(芳賀町与能)

来るお客さんに愛されるよう良い商品づくりをします。

さらに上三川ふれあいの家ひまわり「アトリエ・ド・パン シュシュ」では2か所でパン販売が始まりました。

- ⑤JAおやま石橋支店農産物直売所「四季彩」(下野市石橋)
- ⑥野菜直売所「おかあさんの店」(上三川町上郷)

納品ついでに購入した新鮮野菜で新商品もできちゃいます。近所にお立ち寄りの際はぜひ買ってください。



②真岡フレッシュ直売所(294号線沿い)…レジ前の棚に並んでいます。買い物の最後に手に取っていただけると嬉しいです。



④B & G海洋センター…受付前で販売。体を動かした後の栄養補給や、進級できたご褒美に!



⑥野菜直売所「おかあさんの店」…加工所で作られたジャム(なし、いちご、トマト)と味噌は逸品。シュシュのパンと一緒にいかがでしょう。

# わたしのおすすめの本 こぶしづかん

## 野球の本の言葉を思いだし自分を鼓舞する

今年度から芳賀地区のリーダーに就任し、忙しい毎日を送っている川田さん。

「仕事で心がけていることは、忘れないように書き留めてあるんです。仲間のために、職員のために偏りのない仕事を」と話してくれました。

小・中・高校と野球部で汗を流し、現在も社会人チームで野球を続けているので、おすすめの本も野球で…。と、この本を紹介いただきました。仕事で大変な事があってもこの本から得た冒頭の言葉を思い返し仕事をしているとのこと。

川田浩平(かわだ・こうへい)さん 居住生活支援事業所 世話人



小野崎 彩(おのざき・あや)さん こぶし作業所・支援員

## どちらかというインドア派

インターネットで話題となり“読んだ人の9割が涙した!”というこのストーリー。小野崎さんもこの本との出会いはインターネットだったそうです。

自分自身と重ね合わせたりしながらこの本を読み、両親・身近な人の嫌な所ばかり見てしまうことが多いけれど、そうではなくしていくことが大切なんだ、とこの本を通して学んだそうです。

「普段は、映画鑑賞や読書をして過ごしていることが多いかな... どちらかというインドア派なんです。」と休日は自宅で過ごすことが多いそうです。



**絆(きずな) 冬は必ず春となる**  
●岩隈久志 / 著 ●潮出版社 / 952円(税別)  
「絶望したり、あきらめたりすることはありません。乗り越えられない逆境はないし、逆境を乗り越えたときにこそ自分が大きく成長できます。だから、逆境は大きなチャンスでもあるのです」  
本文より



**鏡の法則—人生のどんな問題も解決する魔法のルール**  
●野口嘉則 / 著 ●総合法令出版 / 952円(税別)  
▲小学生の息子が友達から仲間はずれにされているという悩みを持つ主婦が、知り合いのコンサルタントに相談し、息子がいじめられていることは自分が身近な人を責めていることに関係しているということに気が付き問題解決をしてみた過程が書かれた実話をもとにした物語。

## 解決のキーワードは、 学校、職場、家庭、コミュニティーの中で、 「節度を持って他人と交わっていく力」、 「自分たちで問題を解決していく力」を 育てること。



社会モデルを地域文化に (連載第9回)  
高橋温美 (こぶしの会常務理事)

児童虐待「1千件↓6万件」  
10年間で60倍!

小山市の当時3歳と4歳の幼児が、同居していた男性に日常的に暴行を受けた上、思川の橋の上から生きたまま投げ込まれたという虐待死事件から9月12日で10年たつという。当時、現場のすぐ近くに住んでいたのが、高校と中学の娘たちはリアルにその情景を想像し、絶句したことを思い出す。日本の児童虐待相談件数は統計開始の1990年の1101件から2011年で5万9862件と急増している。こうした現状を反映し、2000年には児童虐待防

止法が成立、当時貧困家庭を中心に経営されていた社会福祉施設(児童養護施設)はその社会的有用性が疑問視され経営難に陥っていたのだが、児童虐待問題の浮上り現状に対応できないほどの対応に迫られている。入所児童の7割以上が虐待を理由にしており、3割程度が障がい児だといふ。家庭内での暴力問題は高齢者、障がい者、DV(ドメスティックバイオレンス)と、相対的な弱者に向けられていく。高齢者の虐待防止法は2006年、障害者虐待防止法は2011年に成立している。

## 社会的弱者救済の場も 放置すると閉鎖社会になる

こうした暴力は家庭というプライベートな空間だけの問題ではない。「いじめ自殺(自死)」も2005年ごろから相次ぎ、2006年には文部大臣宛に自殺予告の手紙が届き、深夜の記者会見が行われたのは記憶に新しい。今回の滋賀県大津市の事件も学校、教育委員会の隠れ、警察の介入、第三者委員会の調査報告と大きな社会的関心と問題を提起している。教育の場のいじめはスクールカースト(同学年の中で共有されている身分の差)という、ライン(スマートフォンを中心とした無料通話、メールのアプリ)による24時間の友達(?)関係に拘束されている。子どもは社会性の未熟な存在で、以前からいじめというものは存在したが、今日ほど人格を追い詰め自死に至らしめる状況は深刻である。

教育機関に限らずいわゆる福祉施設や医療機関を含めた、本来、成長過程にある子ども達の発達や社会的弱者の救済が目的である社会的な場も、意識的な努力を続けられないと閉鎖社会を現出させてしまう。高齢者の虐待防止法や障害者虐待防止法はこうした社会的な施設も例外ではないことを示している。

## 職場のいじめ嫌がらせ 「6千件↓4万6千件」

もうひとつ、大人たちの社会的な場である職場での暴力・虐待も深刻である。都道府県の労働局などにある総合労働相談コーナーに寄せられた「いじめ・嫌がらせ」相談は2002年度6627件、2011年度は4万5939件とこれまた急増している。この件数は、セクシュアルハラスメントの3倍超だといふ。労働省によると、精神障害の労災補償の支給決定件数は2009年度234件、2011年度には325件に増加。内閣自殺対策推進室によると2012年には、勤務問題を理由に2472人が自ら命を絶つているという。学校でのいじめ問題同様に、大人のいじめも逃げ場がないだけに深刻だ。考えるべきは、大企業の下請けたる中小企業であり、もっともパワーハラスメントの被害が多いという。

## 一度貧困線から転落すると這い 上がれない環境に暮らしている

**貧困線** ●等価可処分所得が国民の等価可処分所得の中央値の半分に満たない国民の割合のこと。平成21年の貧困線は112万円であり「**相対的貧困率**(貧困線に満たない世帯員の割合)は**16.0%**(1920万人)。また、「**子どもの貧困率**(17歳以下)は15.7%となっている。」

「**子どもがいる現役世帯**」では**14.6%**であり、そのうち「**大人が一人**」の世帯員(母子家庭など)では**50.8%**、「**大人が二人以上**」の世帯員では**12.7%**となっている。(国民生活基礎調査・貧困率の状況)

暴力や差別の問題は、時代とその背景を考えると政治・経済の動向と密接に関連していることは容易に想像される。経済のグローバル化という国際競争体制構築のための雇用のあり方や社会保障制度「改革」前提の構造改革の中では、すべての日本国民が一度貧困線以下の生活に転落すれば、なかなか這い上がれない環境に例外なく暮らし続けており、その不安と孤立の中で加害者となり、現状傍観者とならざるを得ないのが日本という社会的な病理といえるのではないだろうか。だからこそ生活と人格の貧困化は全ての国民的(公共的)な人権に関わる課題であるし、共生の地域コミュニティー、福祉社会づくりという人間復権の課題なのだと思う。そして、その課題克服のキーワードは、子どもたちと同じように、学校、職場、家庭、地域コミュニティーの中で、「節度を持って他人と交わっていく力」、「自分たちで問題を解決していく力(自立・自治)」を育てていくという新たな人間関係づくり(福祉力)がもたらされているのだと思う。